

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立気仙沼小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0073

宮城県気仙沼市笹が陣3番1号

E-mail kesennuma-sho@kesennuma.ed.jp

Website http://www.kesennuma.ed.jp/kesennuma-syou

幼児児童生徒数 男子 145名 女子 105名 合計 250名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「持続可能な社会の実現に向けて、自然との触れ合いや体験を通して感受性を高め、身近な環境から課題を見付け、探究しようとする児童を育てること」をESDのテーマとして捉えている。実践を通して「環境とそれに関わる問題を自覚し、自然のすばらしさを五感で感じ取ったり、自分と環境との関わりに気付いたりする力」の育成を目標とした。

具体的には環境学習を柱に、①海洋教育に係わる学習、②地域復興に係わる学習、③防災に係わる学習を行った。また、ACCUの海外派遣事業を通して④異文化理解に係わる学習にも挑戦した。

① 海洋教育に係わる学習

東日本大震災以降、児童や保護者との関係が希薄になってきている「海」を教材として見つめ直し、人と海の関係性の再構築を図る。理科・社会科・総合的な学習の時間を中心に、教科・領域を横断して海洋教育に取り組み、身近な環境から課題を見付け、探究しようとする児童を育てることを目指す。地域の海に関わる人との交流や意見交換を重視して学習活動に取り組む。

② 地域復興に係わる学習

復興を目指し、気仙沼市の水産業に関わっている方と意見交換をする学習活動に取り組む。第5学年は震災後も地域のサンマを使った商品開発と販売を継続している「斉吉商店」を訪問し、地域に水揚げされるサンマを使うこだわりについての講話を聞き、働く方と一緒に地域の未来像を描く学習に取り組む。

第6学年では総合的な学習の時間を中心に学んできたことを多面的・多角的に見つめ直し、子どもたちなりの気仙沼復興プロジェクトを作成するとともに、「海と生きる」を復興スローガンに掲げる気仙沼市において、自分たちにできることを考えて発信する活動に取り組む。

③ 防災に係わる学習

クラブ活動の組織の中に防災クラブを設置し、様々な災害のメカニズムを学んだり、災害時に求められる行動について児童が主体的に学んだりする時間を確保する。

第4学年の総合的な学習の時間では、児童が実際に学区内を4方向に分かれて歩き、危険箇所や安全な避難経路を書き込んだ防災マップを作成する。地区住民や学区内の自主防災組織の方々との協働を重視し、まち歩きは地域の方と一緒にを行うようにする。

(今年度は平成30年2月11日に行われた「気仙沼防災フェスタ」で防災学習についての発表を代表児童が行った。)

② 異文化理解に係わる学習

韓国のアンチョン小学校（ユネスコスクール）の第3学年児童を対象に日本文化を紹介・体験する授業を実践した。取り扱った日本文化は「風呂敷」で、本校の児童が作成した作品を実際の授業で活用した。授業の様子は気仙沼市ESD/ユネスコスクール研修会において市内の先生方に報告した。



① の写真(リアス海岸の岸壁に挑戦)



② の写真(企業へのインタビュー)



③ の写真(作成した防災マップ)



④ の写真(韓国での文化交流授業)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ユネスコスクール公式ウェブサイト
- ・東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターHP
- ・国立研究開発法人科学技術振興機構「サイエンス ウィンドウ」
- ・2017年度海洋教育パイオニアスクールプログラム成果報告会資料

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校ではユネスコスクールとしての活動を主に総合的な学習の時間の指導の中に位置付けている。また、教科の学習内容との関連を重視しながら活動を展開するようにしている。指導内容については東日本大震災後の地域の実情を踏まえ、随時指導内容の見直しをしながら活動に取り組むようにしている。指導にあたっては児童が自ら課題を発見できるように工夫し、課題を自分の問題として捉えさせるように意識してきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内の研究組織の中に「海洋教育部」を設置し、地域の海を活かした学習活動や単元開発に取り組むようにした。部会では教科・領域を横断する学びのつながりを一覧にまとめて示した海洋教育クロスカリキュラムを作成し、全校で活用するようにした。また、関係機関を人材バンクとして一覧に整理し、学校と地域の連携を密にしていくように努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動分野 1 1 「持続可能な生産と消費」に関連する単元を開発し、公開研究会で授業を提案した。参加していただいた各校の先生方の意見を基に単元を再構成し、学習活動の質の向上に迫っていくようにしたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

海洋教育の推進に努め、教科・領域を横断する「海洋教育クロスカリキュラム」を作成した。クロスカリキュラムは宮城県教育委員会指定学力向上研究指定校事業に係る公開研究会で研究の成果・課題とともに参加者に広く発信した。また、気仙沼市ESD/ユネスコスクール研修会において海外派遣事業の成果を本校職員が発表したことで、海外のユネスコスクールの様子を多くの教職員で共有することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

防災教育の一環で防災マップを作成する際には地域の自治体(気仙沼市滝の入地区・南町地区、魚町地区の自主防災組織)と協働的に作成した。「まち歩き」として地域の実情を探る校外学習には自主防災組織の方々にも同行していただき、児童に積極的な声掛けをしていただいた。児童は昔から地域に住む人たちの経験や安全な生活を築くための工夫を知り、自分たちの学習に活かしていた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ACCU主催の日本教職員韓国招へいプログラムにより、本校職員が韓国のユネスコスクール(アンチョン小学校)を訪問し、文化交流授業を実践した。授業で活用した風呂敷は本校の児童と大阪府箕面市の箕面子ども森学園の児童とで交流しながら作成した。本校の児童は日本の文化を紹介する絵を風呂敷に描き、大坂では藍染めの風呂敷を作って韓国の小学生と実際に使うようにした。韓国の小学生並びに教職員は日本の文化について関心を高めていた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

総合的な学習の年間指導計画をマネジメントし、各学年の学習内容に地域の海を教材として活用する単元を位置付けた。学習内容を地域の身近な自然環境と関連付ける取組を継続したことで、授業の質が向上した。また、地域の自然環境や地球規模の環境問題への興味・関心を高める児童が増え、主体的・対話的で深い学びが展開されるようになった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- (1) 理科・社会科・総合的な学習の時間を横断し、地域の海に目を向けた海洋教育を全校で推進する。海洋教育のねらいは「海の環境や資源、海を取り巻く人や社会との深いつながりについての関心をもち、海と共生しようとする思いや行動力のある児童の育成」とする。
- (2) 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターからの指導助言を受け、海洋教育に関連する授業実践並びに単元開発を行い、取組の概要や児童の変容、成果・課題を平成30年11月1日に行う公開研究会で広く発信する。
- (3) 海洋教育に関連する学習を中心に、市内のユネスコスクールと取組を共有し、授業実践の質の向上を図る。